

朝夷巡嶋記

第七編

卷二

春

庫	2	架
	17	番
	40	冊

^ 13
3093
32



朝夷巡島記全傳第七編卷之二

東都

松亭金水編輯

續輯第三

誠忠諫父與祖父
密使渡口失路費

吉田屋

そと栄辱小因て操と易さるゝ士人ごも猶克が。況や婦女ふむのてと並鶴
始めの渋谷が計らひ道ありぬと思ひたえ大屋高堂ふ冊うらゝとも争うい美小
背んやと思ひも。現ふ人間の住居する家ありぬと疑ひまて結構善美と
盡ある富貴ふ忽地心衰きて君小媚と献するも。君いますく寵愛ありて綾
羅の褥珠の床以前小換る歡樂ふその操さるも忘とて上るこふ思ひた。これ
ハ羽林家も雀鶴が色ふ愛香と美。日夜とさる酒宴と設け歌舞音曲の絶る
間も。彼紂王が長夜の娛樂も。是れ過下とんをける不ふ廣元善信等と始は

九年
七月三日

と心ある輩の眉と擧めて憂うるものなり。平生ありて奉る。とてふも快りぬ。況て
 諫を奉るべき。便のあつて心との。且暮小苦む。執権平の時政の年老といふ外戚
 あり。強て諫むべき仕ふ在るが。あま顔めて過ふけの心の裡に訝しむこと。諺の
 れ者もあつじとぞ。そより高北條泰時いひまご若年ありといふ。忠孝篤く文武を
 勵ふ人勝ると性され。君廣幡の局とぞ。只管酒宴遊兵耽るふと悲む。諫め
 たりと思へども既祖父ありまご父ありと超て諫と奉らん。君父の礼の北月けりと
 思ふもの。又及びがて。密中野能成対。近曾君の品行状さ。小人君の所為あはれ。
 竟ふ國家の害とせん。在下深く是と憂へ諫め奉らんと思へども。若年の身と恐と口
 と噤とあるものあり。足下君の寵臣あり。且暮久前侍の身され。折て見合せ國家
 の為強て諫めまうされ。え老の棟めより。却て左右の棟と容らるものあり。と亦
 心竭とて言し。と中野の例の好侍られ。泰時のまご若輩めて君の品行状と種ふ。

とて奉ると言せ。頼家大少怒り。渠が祖父時政も父時時も言ふ。若輩の身
 の分際。少く鳥游がまやと敦圍う。ちと多時風。殊と思ひ。泰時とて北條へ
 下。隈小鎌倉へ来む。と固く制し。うけま。泰時の父の命。背くべきふあふれば。彼
 地に至りて。蝨居。且暮小書と讀て。往昔の人と友とあり。その徒然と慰さる。つ
 鎌倉のまごとき。廣幡の局世と辞て。君の憂の床に沈み。夫より後。いれ。托興。遠
 ざりぬ。ときとふ。人の死と秋が。ねど。ツの憂へと除き。うと。思ひつ。あつもの。
 いまご父より許されぬ。鎌倉へも泰時を。猶北條小居。は。の頃。陸奥。の
 城の山論の檢断使。北條氏の計り。ひ。朝夷。秀近。小發足。ま。の風。聞。小
 時。眉と擧め。誠。く。ぬ。と。れ。既。小。その。と。分明。なり。許。こ。を。の。は。國。家。の。大。事。論。
 所。ふ。て。あ。ま。と。や。と。直。小。供。人。の。准。備。す。道。と。早。めて。第。二。目。の。汚。暮。小。到。る。と。多。
 時。て。何。多。の。を。小。か。り。遠。く。来。ま。と。や。と。い。泰。時。さ。ん。先。頃。彼。地。下。り。て。后。い。ま。ご。

許へ被らねど言すまゝの在あり。推て是まを参りて祖又君の洋詔と許しと
 言さふまゝ何れぞ急の大事と。よと駐めんよもまけま。則時政へ如此と告れ
 時政北叟咲。まも久も渠とるべ。頃とて不ど。多時則ち泰時と。突の二間へ伴
 るへ。時政いと奉て。近く招き。汝が身の上君より答めり。ふあ。多時君の怒を
 忍て。傾小領地へ逐遣し。真忠のいへ所。此方の慎の。依還る。来りぬ。仔細
 何と尋ぬ。泰時近習の令と遠き。風ふ来り。陸奥の。般城山輪の檢断使
 小義秀と遣り。當家の討らひ。此の真忠の。問へ時政。ち笑ひ大
 事と。まの何れぞ。珍事と。思ひ。小夫の。在つ。如何も君の令。ふり
 義秀。不令。名今朝。傾小發足。泰時小膝と進め。若輩。ふり。て恐
 き言。茶ふ。像。も知。如。陸奥の廣大。且邊境の。王令。更。仍
 も届。動。無頼の悪徒威と。遅。因て国司の。他。守

府と置。政と執。ひ。右幕府の。時。總追捕使の令。守護地頭と
 置。國政と執。泰衡。の。猶。今。小從。因て自ら征伐。その
 武徳の限。國中威服。の。是。後。程。任。城。を
 や。動乱の緒。是。先。仲。武功。且。朝夷の内助。静。間。般城の山論
 這。の。小事。似。曾て。主。民。の。企。傾。檢断使。當。不。と。定。玉
 へ。ま。穩。便。沙汰。と。後。と。背。公。叛。逆。人。の。罪。同。か。下。と。理。と。静
 め。這。回。檢断の。次。牙。の。急。地。乱。と。然。檢断使。下。向。和。田。山
 の。輩。の。三。浦。土。屋。の。属。あ。て。武功。智。量。の。勝。老。輩。の。克。難。然。の。ま
 若。輩。の。義。秀。不。令。と。用。の。道。如。最。秀。の。勇。力。の。専。と。ま
 漢。士。の。智。量。の。試。や。老。輩。の。勝。の。器。量。の。と。官。祿。の。入。自。侮
 へ。侮。の。民。服。の。以。の。后。来。の。静。謐。を。の。彼。処。の。既。般。城。四。郎。時。直

家の為に死せざる辞せ。況や権貴と憚りて。口と嚙らる張とる物と事までやれ。元来心中毫末も巧言令色のみけとる。然るに権貴も憚らむ。我意を慕ふと宣ひて。我盛とま計策りて。速く退けり。阿黨の小人も進み昇りて。後言。國家の大患とひききん。渠は一家一族と滅するのと宣へど。多く左様の者ふ。當家の君の外戚とて。誰か重んずる者も。然るに常仁恵と施し。実として軍家と神仇一奉るものあり。や謀叛の輩ありとも。徳懐きて叛心で。翻んと必定たり。況や多盛ふ於て。この誠の千慮の一失。あつたれば。過おひ。其後る。朝夷と召返され。他人の批評する。中計り。願ひけれ。言葉の場。涙と流し。理と推て諫めけ。時政は惘然とて。更なる。詞あり。空嘯きてあり。時破と眼と睜と。泰時祖父に。憐れ振る。その諫言。尾龍も。猶餘あり。畢竟家の仇とる。佞人として退る。子孫を。後家と思はる。

夫等のとも辨す。他人と愛親族。悖れ。所謂悖徳悖禮あり。先頃も。夫等のとも。いひ出て。無越君の不與と被る。北條逐下と。後何の沙汰も。全く外戚の。と思し。召と君の仁恵と恐と。許す。在き。夫と。俟て。我。地。未。鳥。許。祖父。對。吾。と。閣。諫。言。葉。黃。口。孺。子。何。と。知。ん。退。て。歸。る。今。宵。夜。も。館。足。を。駐。り。て。无。用。有。素。頼。と。逐。出。を。怒。り。今。更。何。と。の。解。術。も。有。泰。時。は。平。伏。せ。ま。左。右。の。袖。と。搦。合。て。寒。く。寒。り。出。間。の。隔。紙。幾。時。が。自。破。と。建。切。て。父。時。政。に。對。ひ。つ。て。无。礼。有。渠。が。舉。動。然。と。怒。り。て。う。ひ。け。ぬ。然。る。に。渠。が。心。中。強。當。家。悪。れ。て。言。う。ふ。ひ。ね。は。是。時。の。戲。ま。こ。い。さ。言。て。陪。話。け。ま。時。政。は。笑。と。年。甲。斐。も。多。く。腹。を。ま。ん。渠。の。く。ふ。吾。あ。れ。ハ。餘。の。子。供。等。と。今。下。く。也。時。政。は。要。も。多。く。必。跡。界。を。う。ひ。て。湯。島。と。心。な。り。其。許。も。ぬ。分。か。て。今。宵。の。密。館。注。め。翌。日。夜。あ。け。北。條。へ。歸。り。計。ら。ひ。わ。り。孫。

と思ふ。多時畏く湯島不器と分袂す。其才の突へ入る。泰時ハ只管父の怒の
 烈しけむ。必そ其処と退出。熟く思ひ廻す。その計りの道のめ。言も足らぬ
 所為さ。諫め止まる勢ひる。む。や腹心の者なり。他へ洩さ。ことおもわれぬ。
 心不款き。夜陰と。武士の何ぞ。恐る。と。即供人と促す。と。折湯
 島沸太郎馳来。今より出さる。と。道の程も便る。実ハ大カ称賀。と。今す
 る。夜と。明して。出させ。と。其内意。と。生け。と。子と思ひ。親の忠。恃る。と。
 却て考る。と。かの沸太郎が。い。隨意。と。あの夜。と。明。と。習。北條へ。出。と。り。
 嗚乎。北條父子。奸謀。憎。と。猶餘。と。あり。吾。と。滅。と。する者。ハ。盛。と。る。と。盛。
 め。果。と。後。年。の。和。田。合。戦。頗。先。見。の。智。あ。る。と。似。と。す。と。北。條。氏。世。執。権。あ。る。
 り。慎。と。り。守。り。誰。の。と。犯。さ。さ。と。威。不。募。と。君。と。凌。と。悪。行。超。過。不。
 至。と。る。故。の。と。と。北。條。氏。の。高。運。と。而。三。度。寇。不。伐。勝。竟。不。九。代。の。榮。耀。と。究

ひ。佯。倖。甚。と。の。人。間。估。休。願。が。て。その。習。日。我。時。の。密。不。湯。島。沸。太。郎
 と。己。が。居。間。へ。喚。迫。げ。多。く。の。家。臣。あり。と。の。も。内。容。の。と。洩。さ。る。と。更。不。汝。一。個。不
 限。の。開。の。豫。と。心。に。さん。這。回。と。密。計。と。女。の。委。ね。と。を。あ。れ。と。次。弟。の。他。を。志。
 彼。と。秀。秀。が。身。不。志。と。大。任。と。課。と。る。と。必。定。渠。が。過。と。巧。と。る。と。猶。熟。と。思
 ひ。と。る。と。渠。と。多。く。不。才。智。園。と。昼。量。勝。と。の。の。れ。と。相。心。ひ。の。外。不。仕。課。と。帰。と。未
 ん。も。も。と。然。す。と。此。方。で。巧。と。る。と。齟。齬。の。と。と。渠。と。ま。あ。く。巧。不。誇。り。と。
 の。り。當。家。と。無。ま。下。と。これ。の。謀。計。と。新。巧。と。率。と。り。の。書。翰。の。般。城。四。郎。時。直
 への。密。書。の。れ。汝。と。ま。持。て。路。と。急。ぎ。朝。夷。の。先。と。彼。地。到。と。輝。と。計。と。と。の
 謀。計。の。簡。様。と。と。耳。の。傍。へ。口。と。つ。け。伏。語。と。と。半。响。計。と。と。書。翰。と。と。
 載。と。り。你。時。直。と。腹。と。合。と。足。る。所。に。補。と。心。得。と。と。説。示。と。沸。太。郎。の。額。
 畏。と。今。逸。と。兼。り。ぬ。在。下。短。と。と。と。か。大。事。の。密。と。と。委。ね。と。根。性。と。と。

朝夷



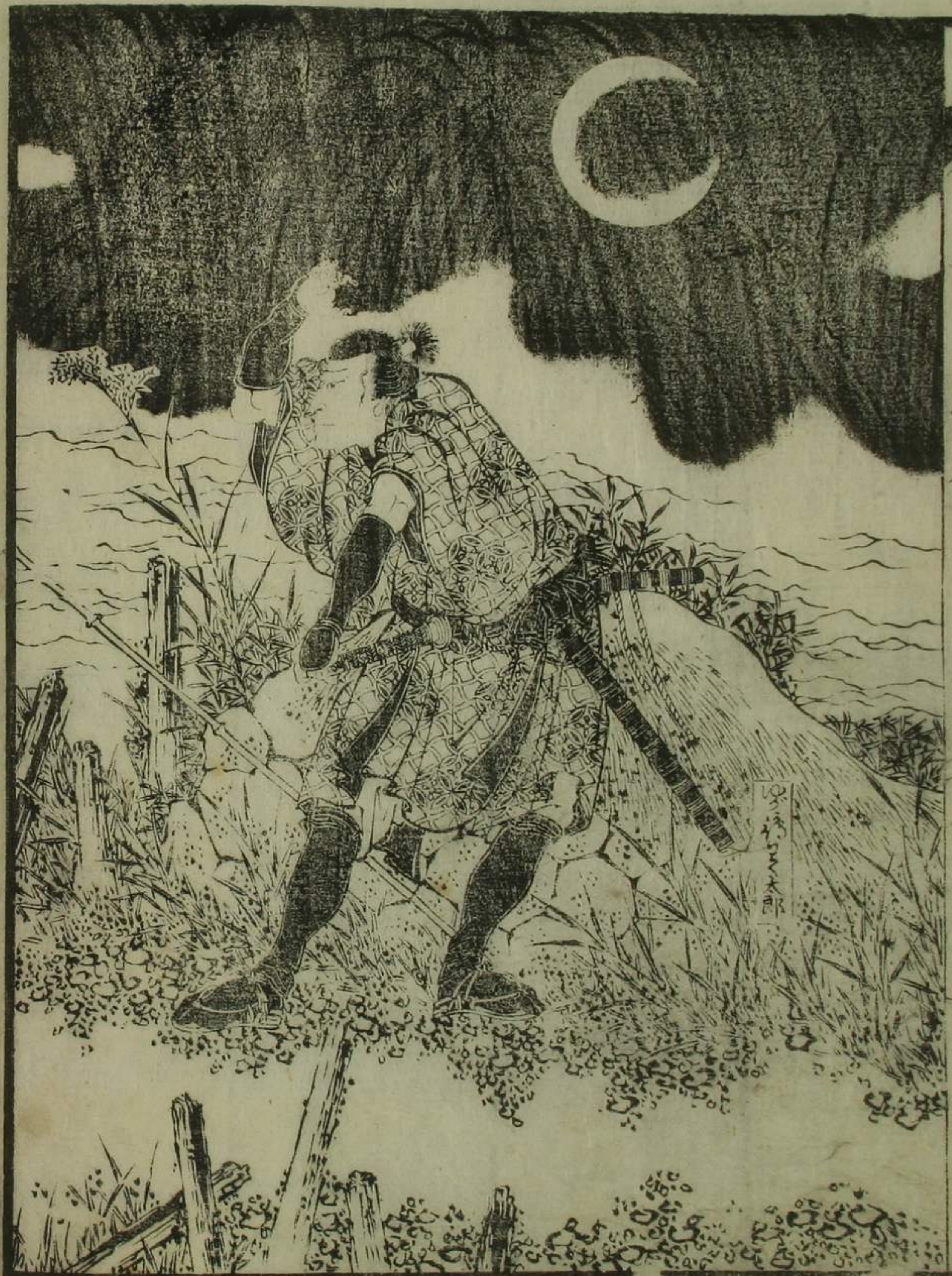
笛鶴とほく
 羽林遊與よ
 耽里まへ

夫等と恐まて一日もの活計があるべき切ら見事切てんこといも果さ
 身と沈め腰と繫と抱き疎ぬまの湯島透きだ振解く後小立る御者うの
 鐘と下と楸も背の支燃あぐにに伸し懐の胴巻とんとするふ湯島との
 糸と楸も筋斗ううく楸んとまの打一個湯島が橋と蹴揚て船縁へ
 撞と倒せ湯島が多堪えは佩刀とすうと枝とさとうち揮う太刀風と心
 岸の堰を枯枯もまを計アアえけさ三つの賊も忽地不敷き怖とて水と飛
 入る水の水煙を繞て三個飛入り往方もあもるりりあを沸太郎の船端不足踏
 るく水面と霎時白眼呵と大笑を投者め龍の眼の珠と取りて鯛鯉の鱗
 似う懐かぬ振も水底潜水船の敷板操技とら古もまと吾や食人些と早
 くの舟と四逆とつる水掉あり是に伴と操て漸と向ひの岸着き汀の枯草
 踏を足踏を揚げて宵月の四もて信とえまを怪しき影もあがれ今と心易れを

途と早め往不ふ僅ふ里餘と過て幽ふまが白厚の立並ひる所ありを人里の
 近つきの腹さいて空るふまが此処か食と索め月小舞くと終夜走も難きとあはと
 元来大膽不敵る心くこと怖る色もや近づきえんやいさの驛路の林
 るれも両側の家数多しも列りうまを時刻のや遅さう太公門と鎖を酒食と索
 むる家もいそいそはふりく當惑りて往たまの半段餘もあは旅店と覚るて傍の
 戸と鎖され出入の口も閉きて麴の端る王籠あの大さるる鍋とひ人五六人四坐
 以梳何や盛てり沸太郎は是をたより飲むさ小踊り入り吾も急ぎに極する
 夜路と厭を来しとも飢不臨と困下り酒ある散あま其他不極も食へき
 物のあまの頭切てよといひまの傍の床机小腰ちかかとい婢女とお不さ茶碗
 へ温湯汲て来つるを二更も近けき大友活んあて進りんのも多くあを遣る
 二種三種の品あり酒の杯はては望まの進らせんの小湯島點頭て酒をあふ

うといへ主人と云へて年の頃三八九の大漢子ぶくと来りてその傍小腰を掛て
 客人何の用ある。主人則已と云う。と云ひ放つて會釈もせん其処を廻り居る景
 勢迫曾无礼なる奉勅。心五分の怒り萌せど丹と答ひるまづ後ありと。胎の
 めて言葉と和らげ。吾の強倉より陸奥へ殊小急ぎの要用あり。往者より暮暮及
 び彼処の津で引刺さる。悪見さ小端の。出會盤纏を取んとする不ど。吾も嗜を
 本事と云て。賊と懲りその場を。雜る過て未の。飢るま小心急。酒食を
 うてその價と借んと。今更ま。腹小捨せ。朋卷の。諸の這奴等と挑と。端を
 夫と奪りて。夫小聊心の着を。飽まで食ひ斯の。酒食と貪る悪見。と思ひ
 まんこそ。武士の慚愧。不堪ぬ所為なる。実今更に詮方。吾の強倉刀称の内
 みて。二のひと。せ小花明ける。何其刀称の家臣。仔細あれ。主の名も。吾名も。今い言と
 けまど。縛果て後。あ処と戻さる。折小立寄て。信と丈程の報い。今宵の價

其時まで。在下小借て。と。餘も。るげ。言から。言葉も。も。畢らぬ。此家の主人の
 眼小用。え。頬脹ら。く。傍と。る。此項の物。心。心。侍と。油断。る。ま。錢。きて。飲食。
 鎌倉刀称と。蓋小着て。價も。か。往。る。高小。身。津場。出會。と。い。刺ら
 小。二段倍。光根。の。光。涉。り。も。鄙。あ。強倉。の。と。を。わ。ね。酒。杯。で。我。小
 飲。せ。と。い。觸。も。未。か。天。四。海。の。倉。生。と。惠。さ。る。上。小。立。人。の。心。と。つ。つ。錢。倉。刀。称。の。内
 内。人。の。錢。金。の。小。酒。飲。で。も。う。と。い。何。時。の。世。小。誰。と。極。て。か。ま。り。や。無。每。の。狂。言。の。え
 小。預。置。て。往。り。吾。懐。小。物。あ。り。や。さ。も。知。ぞ。口。様。酸。の。甘。の。活。物。小。雜。備。付。て。ち
 喰。ひ。一。ぶ。び。身。の。腹。小。入。り。返。さん。と。得。返。さ。と。飽。ま。て。朝。け。る。言。葉。の。端。と。憎。さ。も
 憎。ま。と。さ。も。身。の。大。事。の。要。用。あり。元。未。已。過。失。と。思。ひ。か。へ。て。猶。種。と。言。葉。と。竭
 ち。陪。話。と。可。比。果。い。益。と。声。を。光。棍。上。侯。白。と。散。小。悪。口。す。れ。の。時。小。湯。島。赫
 と。急。心。立。て。酒。氣。上。分。小。頭。上。升。り。身。の。怯。も。ら。ち。忘。と。傾。て。刀。の。柄。を。と。り。け。分。の。誤



小近く見えぬる。まづその棒と傍をかき。吾仮初の宿りよめて。拘をらふ。死すのあり
 ねど。相見え送の由縁より。安んぢらまば。最前より。動静と彼処でまき。酒食と做
 る。錢とあき。往んとすると。誠むと。その商人の恒りて。此方より。非道いあ。然
 とも。吾思ふ。苟より。二錢の貯る。酒食と食。老いあ。開い。その。今。寄て。此
 人。必も。然ら。殊。夜目。あ。面。定。夫。も。難。今。寄て。此
 小。下。後。て。忍。ま。知。已。す。と。所。同。強。倉。住。思。他。多
 過。い。い。も。快。く。其。酒。の。代。在。下。あ。償。ひ。て。ま。づ。その。素。解。ま。不。礼
 と。陪。話。よ。と。雪。洞。と。其。処。置。の。索。と。解。湯。島。沸。太。郎。の。安。堵。す。め。の。と
 瞳。と。定。め。て。ま。づ。其。面。と。誰。と。も。不。猜。暗。ね。と。急。難。と。救。り。ま。づ。城
 ち。小。額。の。汗。拭。ひ。も。あ。を。所。同。強。倉。住。人。と。宣。へ。と。吾。の。面。と。認。む
 ち。い。あ。れ。ど。も。今。宵。の。時。宜。計。ら。ぬ。麻。忽。の。憂。耻。と。救。ひ。ら。る。辰。守。る。ま。娘。と。い。い。今。更

小面をせめて。い。この。此。方。の。武。士。も。その。外。小。坐。と。して。認。り。れ。と。道。理。を。在。下。へ。入。る
 蔭。も。あ。れ。倍。臣。の。下。臆。り。これ。ど。も。武。士。の。端。言。を。相。見。送。と。せ。ま。り。の。ま。づ。主。人。の
 賓。客。の。酒。の。價。を。許。を。今。預。拂。ひ。と。せん。夫。就。て。い。と。あり。價。と。取。て。物。と。活。
 是。商。人。の。恒。る。引。利。小。出。會。奪。り。と。も。心。着。て。と。武。士。の。詞。と。魚。て。い。と。も。可。也。と。
 捕。足。捕。縛。め。猶。その。小。棒。と。して。辰。守。と。と。と。不。仁。と。い。も。餘。あり。その。價。ひ。と
 不。償。の。女。們。小。言。分。あ。じ。の。を。是。よ。の。の。賓。客。を。為。小。耻。辱。と。雪。ぐ。べ。覚。悟。せ。よ。と。い。ひ。も
 果。ね。小。主。人。の。漢。士。北。叟。笑。天。在。下。か。る。小。民。の。と。も。夫。不。の。理。と。知。り。ん。や。知。ら。ば。何。故
 斯。の。と。ん。と。詰。り。つ。答。も。せ。ん。博。識。人。小。聞。と。あり。堯。舜。の。民。の。堯。舜。の。心。と。つ。て。と。と
 する。由。多。質。直。り。て。曲。ま。る。と。も。傑。紂。の。民。傑。紂。の。心。と。以。て。心。と。する。由。多。暴。虐。り。て。直。を
 り。今。泰。平。の。世。小。知。る。も。その。政。柳。營。小。出。志。獨。北。條。氏。権。と。執。て。と。が。非。道。と。行。つ。る。
 入。北。條。氏。の。あ。る。と。知。つ。て。將。軍。家。の。あ。る。と。も。あ。小。於。人。の。心。只。推。勢。と。逞。ま。く。と。貪。り

掠むる事と旨と見、両刀とて帯にぬき、北條刀称の内なる、偽構えて酒食を食ひ、
 或い金銀米錢まで掠め取りんと巧む者、徘徊するに数回あて、背櫃ありと若も
 まご、真その筋の人なり、後の祟やあんと、思までその音心不陸ふめり、その宿客も
 その始め名とそいそれ、孫倉中、三の合臣下なりと、まご其権と侮らる、借とそ例の
 投者ありぬと痛く計らぬのゆ、強し武士と侮り、犯すの心不あ、まご、
 いひ放ち、自若らるる面魂、凡者もまご、けし、その武士も重ねてい、沸太郎い
 巴がまの北條家と悪さる、い罵らまご、心中怒るとい、明と地する、使ふ、
 れと、顧るのこら、まご、の武士、何者也、若荒そ、名謁する、時、宜不、
 倒るりと心不汲、故意と呵と、ち、北條刀称と、然の、奸佞、
 時威勢強け、世の嫉と、思さる、い、做と、族も、
 在下が、為、小、這、奴、等、と、懲、あ、て、耻、と、雲、さ、ん、の、好、意、い、嫉、く、存、お、さ、し、も、実、在、下、懐、

中不有、酒食と、做せ、此方の鹿、忽、彼、等、が、无、礼、と、太、く、咎、め、
 借、用、せ、り、と、孫、倉、へ、飯、を、後、何、方、へ、返、し、言、さ、ん、苦、く、貴、客、の、姓、名、を、
 とい、け、ま、の、武、士、の、頭、と、も、揮、り、争、ま、あ、及、ぶ、き、い、ま、け、ま、ひ、そ、若、縁、
 會、の、期、が、あ、ら、ぬ、如、何、な、り、も、報、ひ、と、做、し、ま、急、ぎ、の、旅、と、ら、ん、子、の、刻、不、
 預、く、立、出、る、人、へ、い、い、湯、島、強、て、も、問、を、然、ら、び、の、議、を、從、ひ、好、意、と、黙、止、
 ま、宣、ふ、如、く、急、ぎ、の、旅、日、夜、の、差、別、も、い、い、と、ま、帯、ひ、き、締、め、兩、刀、腰、
 排、を、猶、厚、く、禮、と、述、迹、と、も、い、ま、て、出、て、行、主、の、漢、士、の、迹、を、送、り、呵、と、
 ひ、と、世、の、い、ま、と、く、空、戯、さ、る、投、者、の、あ、る、り、の、腰、に、兩、刀、あ、り、ま、ご、錢、も、持、
 飲、食、做、し、他、の、助、小、枯、鹿、と、馳、不、逐、し、鼠、不、芥、一、尾、と、揮、て、逃、出、し、孫、倉、
 二、と、称、す、人、の、家、隸、と、い、ひ、る、が、二、と、あ、ら、北、條、と、和、田、畠、山、の、人、ら、箇、程、不、覺、る、家、隸、

苦くううんんののひひりり笑あはてて先せん人にんのの姓せい名なとと問とんんととすす小こ吾われよりより先せん名な掲かげげららすす折せ

 小これれハハ強つよ倉くらああるる和わ田た廷てい尉ゑいのの臣しん下か下か腰こし越こええ獸けつ六ろく郎らうとといいふふののくくのの身み短たん才さい無む能ね小こ多た

 数す年ねん彼か家け不ふ在ざいるるののまま下か下か鴨かみのの域いきとと離はなれれ名な湯ゆもも面めん目めるる業わざのの這こ回わい朝あさ夷ひら多た

 秀ひでぬぬ使つかままてて越こええののまま若わ狭さとといいふふ所ところ不ふ赴しゆきき是こゝよりより鎌かま倉くらへへ向むかははりり足あし下か下か及およ

 びびつつんん和わ田た殿でん一いつ家けのの英えい雄ゆう多た何なにもも思おもひひるるささののまま朝あさ夷ひらぬぬ珠たまとといいふふ

 弱じやく官くわんのの近ちか頃ころまま諸しよをを遊あそ行ゆのの先せんとといいふふ功こう名なとと著しやくししののまま辱はららるるささののまま先せん

 頃ころ鎌かま倉くらへへ向むかははりりひひてて程ほどののまま將しょう軍ぐん家けのの匪ひ近きん不ふ擇たくれれとと隨ずい從じゆるる水みづ草くさ城じやう戸このの西せい士し

 ののまま家け隸りとと稱しょうすすれれどど是こゝよりより思おもひひ顧くわんのの者ものああららまま信しん夫ふのの莊じやう司しがが舊きう臣しんとといいふふ

 下かのの列りやくののまま世よののまま埋うめめののまま隱いんるる小このの英えい雄ゆうああららまま若わ狭さとといいふふ人ひとののまま臣しん下か

 せせんんとと傳でんててもも望のぞみみるる所ところののまま曲まがりりののまま未み歴れきとといいふふ曲まがりり祝いわゆゆせせ此こゝのの

 主あのの欣きん然ぜんとといいふふ貌かたちとと正ただししとといいふふ賓ひん客かくハハ和わ田たヲヲ稱しょうのの家け隸りとといいふふ在あららまま宣のたまふふ如ごとくく朝あさ夷ひらヲヲ稱しょう

武ぶ勇ゆうのの像ざうとといいふふ及およびび縁えんとといいふふ需ひるる二に回かい見けん衆しゆをを慮りふふののまま聊しやく仕しとといいふふ推お薦せんせせんん

 小このの拙せつとといいふふ街まちにに似にええれればば果はたた端はもも貴き客かくとと宿しゆく且かつ今いま宵よのの騷さわぎぎふふらら

 かるる條じょうとといいふふ兼かりりののまま折せるるああららまま推お薦せんとといいふふ情じやうとといいふふ言こととといいふふ在あらら

 下かいい去きぬぬ年ねん木き曾そう殿でん俱く利り伽か羅ら峠とうもも平へい家けのの大だい軍ぐんとといいふふ好こうむむとといいふふ

 高かう名なありり岡おか田たのの冠かん者しや李りのの子こ多た知ち名なとといいふふ別べつ若わとといいふふ必かなずず當あ下か又また村むら者しや平へい將しょう知ち

 教きやう組ぐ討たうとといいふふ俱く深しん溪けいへへ陥おちひひてて泉せん下かのの微い忠ちゆうとといいふふ及およびび功こうののまま賞しょうをを

 ううけけをを在あららまま五ご歳さいありり母ははのの懐なつ抱かかりり信しん濃のうありり程ほどののまま木き曾そう

 殿でん栗り津しん不ふ失しつひひてて刺さへへ清せい水すい義ぎ高かうもも害がいされれるる程ほどののまま餘あま黨たうのの詮せん鑿たく嚴げんとといいふふ

 故こ郷きやう不ふ足そくとといいふふ駐ちゆうめめるる此こゝののまま由ゆ縁えんののまま夫それ不ふ便べんとといいふふ母はは諸しよ共こ幽ゆう送そうとといいふふ時ときとといいふふ

 俟まち不ふ在ざい下か十じゆ三さん歳さいののまま秋あきのの頃ころ母はは病びやう不ふ世せとといいふふ辞ことづづ二に年ねんとといいふふ經へいてて便べんとといいふふ人ひと死しててああのの

 家けのの迹あととといいふふ嗣しへへきき者ものななららまま里さと人ひとののまま勸かんん隨ずい意いとといいふふ即すなはちち其その人ひとのの迹あととといいふふ嗣しへへきき此こゝのの

旅店の活業りやでん かつぎのいのまじりのまじりあ此こもも朽くまんまとと縁縁ててもも思おもひひ悔くとと是これ等らのの者もの
 どもどもままここ此こ他たもも志しとと同どうぢぢううすするるのの数かず多たありあり。若わか近ちか因よ小こ乱らんととももああららぶぶ馳ち着せき
 ててるる者もの一いつ發はつささうう家いえとと興きええんんとと思おもふふ心こころあありりままじじうう。邊へん土どあありりてて行ゆくく届とどくく然しかれれば
 推お名なのの剛こう若わくととははんんとともも似につつううううねね前まへのの主ぬしのの名なとと續つてて今いまいい猛もう八はちとと喚わ做せすす異い
 母はは兄あに岡おか田た七しち郎らういい今いま猶なほ信しん濃のう小こ在ありりとと又またとと腹はら悪わるくくとと恃たりりとと故ゆゑ小こ當とう時じのの訊きせせん
 訪たづねねととももせせばばくくててあありり居ゐるる。ととつつてて腰こし越こへへ坐まとと峻あ巡ま向むかひひのの小こ奉ほう動どう人にんままじじと
 思おもふふいいよりより卒そつ爾にままががもも同どう弟ていすすままのの果はてて筋すぢ目め正ただままるる。貴あ人にんあありり在ありり。実じつ小この
 騷さわぎぎままじじららせせんん。仮かり初はつめめ往ゆくく。問とひひももななららずずままとと是これをを值ち偶ぐうのの然しかららししむむ所ところ
 小こああららんんとと頻ありり小こ歎たん息そくとと止とままるる當とう下げ猛もう声こゑとと低ひりり傳つええるる彼あ人にんのの和わ田た刀た称しょうのの三さん
 男おとことと世よああのの披ひ露ろうとと做しるる。実じつ小こ木き曾そう刀た称しょうのの胤いん小ことと巴おがが捕とりりまま不ふ就じををんん。
 既すで小こ胎たい孕ごんててあありりとと小こ滅めつままりりとと知しりり。人ひと倫りんのの言ことのの如ごとくくあありり又またとと父ちちとと親おやとと深ふかくくいいをを

疎そくくやや過あ行ゆくく。ととのの小こ腰こし越こええいい開ひ誰たれもも言ことをを所ところ在ありり下した彼あ人にんのの在ありり。元もと来きた下した臆おその
 ところところれればば夫おとこ等らのの工わざとと曲まがりりををままとと思おもふふとともも今いまよりよりいいままやや十じゅう八はち年ねんののままじじららししむむ。幾いく分ぶんのの一いちへへ三さん歳さい
 ありあり。物ものがが小こもも得えいいひひままららずず殊ことあありり多おほ病びやうままりりととあありり。廷てい尉いとと疎そくくをを。鞆たもと給たまひひ毒どく小このの
 兄あにとと出い家けああせせよよとと宣のたまひひとと母ははののいいとと本ほん意い多おほ思おもひひてて其その項かた彼あ人にんのの務わざをを乳ちち母はは乳ちち母はは
 とと小このの子ことと委まかねね自みづか害がいとと失うせせとと中なかつんんかかてて葉はをを若わか子ことと抱かかきき在ありり所ところ落おちちとと出いままりり。幾いく
 彼あ人にんとと廷てい尉いがが命いのち。在ありり下した野の兵へいのの頭かぶととあありり。由ゆ井いがが濱はまをを追おきき。小こ僅わずか三さん歳さいのの
 阿あ左さ丸まる刀た称しょう。乳ちち母ははのの懐なつかししみ小こののままりりととあありり。其その怪あや力ちからのの甚おほくく及およびび難がたくく。是これをを在ありり
 下したももううちち擲なりりまま。凡たゞるるままじじとと知しるる。其その後のちいいちち強あくく。逐おきき志し館たへへ飯いをを云いふふ。其その時ときのの
 赴かきき訴うぐぐ小こ廷てい尉いもも今いまいいかかるる。其そのままにに捨す置おききまますす。去い年ねん如ごとくく。今いまいいかかるる。再またびび父ちち子こ
 對たい面めん一いつ人にん當とう下げととししてて將しょう軍ぐん家けのの肥か近ちかとといいふふ。其その後のちもも申まをすす。濱はまにに小こ艦かんとと
 捕とりり做しるる。益まさくく武ぶ勇ゆうのの益まさ高たかくく。若わかかかのの刀た称しょう小こ見けん參さんせせまま。思おもひひままにに真まこと



盤纏を失
湯島酒店
窮乏

る。在下と諸共、鎌倉へおきまのんや。然らば、準備のその間、逗留するも苦く、
 と信実とあてのふと、猛公にお歡びや。争、這面の奇遇と黙止さん、直る足下と諸
 共、鎌倉へ参るべし。汝達も如此心得よ。田居一者、小く亦、食一般、愛しと。
 曾動こつて、是を祝む。折る外、方、人音あり、潜り、引あり、来り、西三
 個、獸六郎が在り、左右、奇もつる。言葉もかき、在り、が、預て、猛八とち
 見あり、哥こと、夢うけ、斥、陰へ、五、猛八、坐せ、五、彼、何やら、要
 時、依、語、あり、ける、が、猛八、渠、等、と、おて、獸六、前へ、出来、か、五、素、性、未、塵、物、か、る
 う、何、と、畏、まん、在、下、適、武、門、小、生、ま、生、涯、か、在、入、と、勇、士、の、愧、所、な、れ、一、回、の
 世、出、て、祖、先、の、名、も、輝、まん、と、豫、て、思、へ、前、の、主、猛、八、の、不、束、あ、て、借、錢、の、債
 数、多、あり、在、下、と、嗣、と、責、ら、る、と、急、な、れ、が、鬼、角、あ、て、償、ふ、の、く、
 身、の、愿、の、財、用、足、ら、な、諺、の、小、切、取、強、盜、武、門、の、慣、ひ、と、受、な、れ、が、実、い、あ、の、涉、を、

過、旅、客、錢、ある、奴、と、つ、た、路、上、出、て、と、奪、ひ、志、願、の、助、手、な、ら、し、と、い、ふ、未
 一、入、も、令、と、ま、で、其、賊、と、掠、り、の、然、る、と、這、奴、川、中、に、盤、纏、数、多、と、齋、を
 旅、人、武、士、な、れ、と、個、多、り、奪、ひ、と、商、議、し、て、御、手、処、な、く、は、強、く、と、及、び、難、い
 殺、さ、ば、安、き、と、な、れ、と、然、る、と、縁、と、り、誠、め、お、き、と、守、を、掛、り、序、武、士、が
 胴、卷、外、と、奪、ひ、と、り、各、小、川、へ、飛、龍、で、難、く、逃、ま、る、と、ひ、て、その、品、を、今、め、て
 未、ら、う、思、ふ、小、筒、の、武、士、の、人、雨、小、物、の、雨、小、物、の、夫、と、い、知、ら、ば、此、処、へ、未、つ、酒、食、を
 做、せ、り、因、縁、多、く、奇、と、ち、笑、ひ、儲、の、件、の、胴、卷、を、把、り、多、寡、を、改、め
 ひ、れ、が、砂、金、を、と、五、十、兩、邊、曾、稀、多、獲、り、の、り、ま、つ、汝、達、も、領、兵、え、ん、と、い、ふ
 その、裡、と、改、む、る、小、の、表、書、の、密、書、と、の、記、し、る、書、翰、あり、い、ろ、ろ、の、文、を、披、き
 看、ん、と、燈、火、と、搔、き、と、あ、つ、披、き、と、す、る、小、水、涿、涿、と、破、さ、る、と、す、る、不、と、お、ま、る、
 其、俣、火、不、發、射、と、乾、く、と、言、え、る、と、言、え、る、大、桶、と、い、ま、る、者、も、わ、り、時、段、を、

大々々乾きぬらんと封かき。徐々披き板不裁てその文辨と讀下ま。這回
 當所の強者と檢折りて下下ま。全く罪と負見為の。然れ。彼強者
 頗る才智ある。れ。万一首尾と仕課して。歸ら。り。威と張ん。因て密山賊へ
 陷穿と構え。おき。渠を主従十五個餘を其処へ陥る。その謀計を汝を使
 小卒。水舟の。夢ふ。小舟。洩ま。へ。若。この。一。甘。謀。不。日。賞。行。



朝夷巡島記全傳第七編卷之二 終

